

○議長（初村 久藏君） これで、入江君の質問は終わりました。

-----

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は午後 1 時 5 分からといたします。

午前11時53分休憩

-----

午後 1 時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） 皆様、こんにちは。会派、未来改革の糸瀬雅之でございます。お昼から非常に眠い時間ではございますけども、私の一般質問に 5 0 分間付き合っていただけたらと思います。

昨日の本会議にて、私の選挙公約で掲げておりました議員定数削減 1 9 名から 1 7 名の 2 名削減の一部条例改正が、賛成多数で可決いたしました。次回の市議会議員、一般選挙より定数 1 7 名でスタートを切ります。春田委員長をはじめ特別委員会委員の皆様、市議会議員の皆様、御賛同を頂きまして誠にありがとうございました。

また、議員定数調査に関する意見等に御協力いただきました市民の皆様にも、この場をお借りいたしまして、お礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

さて、対馬市は、6 月 1 日より副市長二人体制となり新たなスタートを切りました。比田勝市政 3 期目の集大成に向けて、しっかりとそれぞれの役割を自覚をしていただき、対馬市が抱える多くの課題解決に向けてスピード感をもって取り組んでいただき、対馬市発展のためにも御尽力を頂きたいと思います。

市長に一つお願いがございますけども、副市長の配置についてでございますが、対馬市全体の行政運営を考えますと、厳原庁舎内に副市長 2 人の配置ではなく、1 人は豊玉庁舎あるいは上対馬庁舎への配置を私は考えるべきではないかと思いますので、ぜひ今後検討して見ていただきたいと思います。

それでは、通告をしておりました一般質問に入ります。

まず、1 点目の対馬市の子育て支援についてでございます。

全国各地の自治体で、学校給食の無償化の動きが進んでおりますが、対馬市として、子育て世代の保護者の経済的負担軽減、安心して子育てできる環境、少子化対策を考えますと、給食費の無償化に向けた政策を進めるべきと思いますが、市長の答弁をお願いいたします。

2 番目ですけども、対馬市市制 2 0 周年を迎えるに当たり、対馬市限定の出産お祝い金の創設の考えはないか。例えば 2 0 周年にちなみまして、令和 6 年度 4 月以降に生まれた子どもに対し

て20万円等の検討をしてみてはどうか。

次に、対馬市の転県についてでございます。

現在の長崎県対馬市から、将来的に福岡県対馬市にもしくは国直轄の特別区に向けて動く考えはないか、市長の答弁をお願いいたします。

以上、簡潔に答弁のほうをよろしくをお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 糸瀬議員の質問にお答えいたします。

初めに、対馬市の子育て支援についての1点目、学校給食費の無償化に向けた政策についてでございますが、学校給食は児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を担っております。

学校給食費の無償化は、子どもたちの健康と学力向上、社会的格差の解消、保護者の家計や心理的負担の軽減という観点から必要性が高く、子どもたちの未来を明るくするために社会全体で取り組むべき課題であることは十分承知しております。

しかし、大きな財政的負担が伴いますので、給食費の無償化は、社会全体で安心して子育てできる環境を確保し、保護者の負担軽減となることから、国の政策として実施すべきものと考えます。

また、長崎県市長会として、給食費の無償化については要望しているところでございます。

次に、対馬市市制20周年限定の出産祝い金の創設の考えについてでございますが、市制20周年限定の出産祝い金の創設については、現時点では考えておりません。これは御提案を否定するものではなく、人口減少対策の一環とする子育て施策については、公平性の観点から、また、行政サービスにおいては、将来にわたって持続的に提供することが必要であり重要であるとの考えからでございます。

現在、人口減少対策として、市制20周年を契機に新たな子育て支援策について検討しております。早い時期にお示しできるよう進めてまいります。

次に、対馬市の転県についてでございますが、平成29年3月定例会において、船越議員から同様の一般質問を頂きました。その際、転県の可否について表明することは、いたずらに市民間に混乱をあおることにもなりかねず、今後も対馬市の活性化に向けて全力投球で責任を全うすると答弁させていただきました。

議員御承知のとおり本市が抱えている課題、問題は、人口減少をはじめ雇用、経済、医療、福祉、子育てなど多岐にわたっております。これらを踏まえ、市政のかじ取り役として、誰一人取り残さない未来へつなぐ持続可能な島づくりに向け、所信表明で述べさせていただきました施策に全身全霊取り組むところでございます。

その中で、転県については、市民をはじめ市議会、県、県議会及び国に影響を及ぼす極めて重要なものであります。

また、その影響は、計り知れないと考えております。

糸瀬議員の御提案は御理解いたしますが、冒頭に述べさせていただきました平成29年3月定例会の答弁内容と今も考えは変わっておりません。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） まだ時間のほうが40分ありますので、ゆっくり進めていきたいと思います。

まず、学校給食費の無償化についてでございますけども、これはやはり市長、先ほどおっしゃられますとおり、本来、国がやるべきことでありますけども、まだまだこの制度設計には至っていないというのが現時点でございます。

しかしながら、全国的に給食費の小中学校の無償化や一部無償化の動きは進んでいて、全国、今547の自治体の実施をしており、全国で約30%完全無償化をやられているということであります。

市長、長崎県内の動向、今、給食の無償化、一部無償化等の把握はされていますでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 長崎県下で完全無償化を実施している自治体は、21自治体のうち4自治体が完全無償化に踏み切っているということでございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） そのとおり、私も4の自治体、そして一部無償化の自治体も4自治体ほどございます。その中で、やはり市長が対馬市として完全無償化までは、財源が先ほどおっしゃいましたとおり大変私も厳しいと思っております。今、小学生1人当たりの給食費、大体250円ぐらいだと思っております。そして中学生が300円、1食当たりですね。保護者は、1年間の小学生の保護者で大体4万8,700円、年間の。中学生で約5万8,000円ぐらいだと思っております。

それで、教育長のほうにちょっとお尋ねなんですけども、令和5年度で給食費の徴収について保護者の延滞とか滞納状況は、令和5年度はどんな感じだったでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 細かい数値までは把握をしておりませんが、各学校の給食運営委員会というのが、給食調理場ごとに設置をされております。その中で予算の管理等されておしま

すが、１００％ではないということは認識しております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） １番、糸瀬雅之君。

○議員（１番 糸瀬 雅之君） 先ほど１００％ではないということで、数字まではまだ金額は分からないということですね。しっかりこういう保護者の、いろいろと独り親家庭、特別支援学級の家庭、生活保護等の家庭がございます。この財源というのは、皆さん保護者はやはり負担になってくると思います。

今これを例えば、これ市長のほうにお尋ねしますけども、１年間、小学生、中学生、これを完全無償化にする場合の予算、どれくらいの予算を考えてあるのかお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、完全無償化といたしますと、小学校が６，７００万、中学校が４，６００万の１億１，３００万になると試算をしております。

○議長（初村 久藏君） １番、糸瀬雅之君。

○議員（１番 糸瀬 雅之君） 年間、１年間完全無償化する場合は約１億１，０００万円ぐらいかかるということで、やはりこれを全て市が負担をするということは私も厳しいとは思いますが、段階的、例えば来年度から中学生のみをすとか、例えば半年だけ無償化するとか、そういった動きができないかなというのが私の要望でございます。それをやはり、ほかの自治体もそれで財源を確保しながらやっているわけでございますけども、対馬市もそれに匹敵するような財源をどっかでつくらなければいけません。

この財源、やはりこの財源は、私はやはりふるさと納税、この財源が一番いいんじゃないかと思っております。今、対馬市がふるさと納税を、昨年度３億、令和５年度３億８００万ぐらいしか——しかと言ったら失礼ですけども、３億８００万円ぐらいですよね。隣の壱岐市、五島市、この離島でも６億から７億のふるさと納税を確保しております。やはり今、ふるさと納税の活用なんですけども、市長、このふるさと納税を昨年度、子どもたちのために活用した事業、これは何かございますか。ふるさと納税を活用した事業、お答えください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） それぞれ１０幾つかに分けて入れているかと思っておりますけども、私も詳しい資料、今日は持ち合わせておりません。担当部長のほうに答えさせます。（「いいですよ、分からなくて分からんで」と呼ぶ者あり）

○議長（初村 久藏君） １番、糸瀬雅之君。

○議員（１番 糸瀬 雅之君） すいません、いいですよ、こちらで。ふるさと納税は、子ども、教育委員会関係ですね、教育委員会。私ちょっと調べてみたところ、１，８００万円ほどしか使

われておりません、1,800万円。そして、博物館等いろいろな部分に3,000万円等使われております。

やはり市長はいつも島の宝、先ほども常々言っておりますけど島の宝、この子育て政策にふるさと納税をもっともっと充てるべきでありますよ。市長、どうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今の現状を申しますと、もっともっと充てたいのは山々でございます。そこで昨年度から、ふるさと納税の委託者のほうを壱岐や五島のほうと一緒に一緒に変えまして、来年度以降、5億以上を集めることを目指しているところでございます。

そういう中、この学校給食の無償化については、実はこの6月11日に全国市長会がございましたけども、その全国市長会の折に長崎県の13市の首長さんたちで長崎県選出の国会議員のほうと意見交換をさせていただきました。この際に重点項目3件として、この学校給食費の無償化のほか、保育料の完全無償化、そして地域生活交通の維持について、この3点を重点要望として上げております。

先ほど糸瀬議員のほうもおっしゃられたように、このことは本来やはり国のほうが手がける政策だといったことで、県の首長としても、市長会としても、このことについて一生懸命まず国のほうに要望を上げているところでございますので、御理解をいただきますようお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 国のほうに要望は上げてあるということで分かります。しかしながら、国の予算というのは、やはり何年先になるか分からないわけですね。ですから、今市長は、島の宝の子どもたちが大事と思うのであれば、この子どもたちを一番優先にどっかから財源を持ってこなきゃ駄目なんです、ほかのどこから削ってでもですね。よろしいですか、市長。私はそのように思いますよ。

ですから、やはりこのふるさと納税もしくは基金、基金が今全体基金で令和6年5月で145億円、この基金がございまして、市長。この基金も切り崩せるところは崩せるんじゃないかなと私は思っております。そこら辺よく考えて来年度以降のこの給食費の無償化、完全無償化ができないにしても、一部無償化の動きをぜひしていただきたいと思います。

そして昨年度、上対馬地区の給食センターで給食がストップしました。やはりこの人材、今、対馬6施設給食センターがあると思いますけども、今人材は確保はできているんでしょうか。教育長、お願いします。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 臨時で働いていただける方の募集は継続して行っておりますけども、正規の職員の方は今、定員を満たしている状況でございます。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） じゃ、次、出産のほうに行きたいと思います。

今年、市長は昨日の所信表明の中で、将来を担う子どもたちへの支援を目的にアイデアを持って取り組むという答弁を所信表明でされました。具体的にそのアイデア、この20万円というのはすばらしい、私は自分自身アイデアではないかと思いますけども、市長のこのアイデアというのはどのような政策なのかお答えください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、子育て世帯、また保護者において困っているという話を聞いておりますけども、まだまだこれは今、議論を重ねているところではございますけども、まず、この乳児等のおむつ関係で、やはり年間かなりの経費が発生するというようなことで、この小さい子どもを持つ親、こういったところからも、このおむつ費等ですね、特におむつ、そしてミルク、そういったところ。そういったところの女性が助かるというような話を聞いておりますので、ここら辺を何とかできるように今、組み立てをしているところであります。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） 今、市長のほうからおむつ、やはりおむつもそうですけど、やはり粉ミルクもですね、やはり私も先ほど言おうとしていたんですけども市長のほうから言われまして、お祝い金ができないにしても、そのような紙おむつとか粉ミルクとか、やはり子育て、小さいお子さんを持つ親にとっては非常に出費がかかりますので、その辺を十分考えていただいて、ぜひこの子育て世代に対して支援をお願いしたいと思います。

そして、やはりこの移住・定住の増加、増加が多い自治体はやはりこういった結婚のお祝い金、妊娠の医療費の無償化、そして保育料、学校給食等の無償化、今市長が言う紙おむつ、粉ミルク、手厚い子どもたちに支援をしている自治体ほど、やはりこういう移住・定住のデータとしては多いデータが出ております。ぜひそこを考えていただきたいと思います。

そして、やはり市長は、今対馬市の子どもたち、18歳未満、常々島の宝、島の宝と言っていますけど、市長は、この18歳未満の子どもたち今どれくらいいるか把握されていますでしょうか。答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 申し訳ございません。ちょっとはっきりとした数字は今押さえておりません。

○議長（初村 久藏君） 糸瀬君、通告外やけんが、調べてない。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） 通告外で子どもに関することですので、やはりこういった一般質

問の際は、ある程度な子どものことに対するデータは持ち合わせてほしいですね。どなたか部長でもいいです、子どもたちのこの数字、分かってある方いらっしゃいますでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 福祉部長、田中光幸君。

○福祉部長（田中 光幸君） お答えします。

18歳以下ということじゃなくて5歳以下の子どもは、現在940名程度の保育所、幼稚園に入るお子さんがいらっしゃいます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今、田中部長のほうから940名ぐらい6歳未満、0歳児から5歳児ですかね——6歳児か、940名。これ教育委員会のほうも多分御存じだと思いますけども、小学生が大体1,200名、中学生が630名、高校生まで言いますと530名高校生がいます。市長、18歳未満の3,290名、今いますよ。約3,290名の対馬市の18歳未満の子どもがいます。この今3,290名が将来の対馬市を背負っていく人材であるんですよ。

市長はいつも宝、宝と言いますが、宝物は特別に扱っていただきたい。いいですか、市長、3,290名今います。よくそこを理解して子育て政策にいろいろやっていただきたい。よろしくお願いします。次に——よろしいですか市長、再度答弁。出産のお祝い金についていいですか、もう。よろしいですか。はい。

そしたら、福岡県の転県についてちょっと、過去にもやはりこの転県、移県等は市長も御存じかと思います。やはりこれは私も将来の夢物語のような質問で、長崎県の大石知事にも大変お叱りを受けるかもしれませんが、ハードルが高いと思いますが、あえて市長に今のお気持ちを聞いていきたいと思って、この質問をつくりました。

今、長崎県、我々対馬市は、だんだん人口が減って、もう2万7,000人を切っております。市長から見て今、対馬市、長崎県対馬市ですけども、我々は、市長は、この長崎県であるメリット、対馬が長崎県であるメリット、ここがいいんだというのを一つと言えど何がありますでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 長崎県としてのメリットと言えど、要は他の壱岐、五島、ここといろいろと力を連携しながら、この離島行政に尽くされると、一生懸命前に進まれるということは、長崎県としての離島県としての利点ではないかなというふうに思っております。

それと、私は、この転県につきましては、糸瀬議員がなぜ転県が必要と考えられているのかなといつも思っておりますけども、私自身は、やはり昭和21年ですから、戦後の混乱期の当時、ここ対馬の開発を目指すために、対馬総町村組合議会等で転県の議決をされたのではないかと、

それで請願をされたのではないかと思っております。

当時のことを調べてみましたら、その当時はやはり対馬の木材、杉等が福岡県の田川の炭鉱の支保工として重宝されるといったことが一点。そして、ここ対馬の周りの漁場が豊かだったということで、当時の福岡県議会として、壱岐、対馬が転県を望んでいるならばということで了解をしたというふうに書いてあったと。これが一応、対馬の歴史等にちょっと書いてありましたので、私も参考に読ませていただいたところであります。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） メリットを市長に、やっぱり言いづらいですけども、長崎県として、この対馬市を逆に見た場合は、やはり離島が多いということで交付税関係の部分があると思いますよね、長崎県、対馬を離さないというのはですね。しかしながら、我々はこの対馬に生活をして、生まれ育って生活をしております。ですから、ある意味、我々も犠牲者というか自分たちがこの島に生まれ育って、ここで今いるということは。

しかしながら、令和 6 年に人口戦略会議が出された消滅の自治体、この対馬市も全国 7 4 4 の自治体で、対馬市もこの消滅自治体にもう既に入っております。これは市長も御存じだと思いますけども、消滅自治体をこの対馬市として、今、対策会議等はその後なされたのか、この対馬市で。そこは答えください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 当時、1 回目に消滅都市として指定されたことは承知しております。この後、対馬市といたしましても我々としても、何とかこれを解消せなければならないということで、人口減少にいかん歯止めをかけていくかということで、移住・定住施策をはじめとして、これまでいろいろと実施をしまいいりました。このことによって、幾分この人口減少率は緩やかになってきているというデータは出ているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） 人口減少は緩やかに回復しているということを市長は考えられておりますけども、そんなことはありません。どんどんどんどん減ってっております。（「回復じゃない緩やかに」と呼ぶ者あり）緩やかにですね、はい、分かりました。

今、対馬市民ですね、いろいろな対馬から病院、それから旅行、ショッピング、就職、進学、この辺やはり福岡県に多くの若者が——若者というか市民も行っているのが今現実であり、そしてやはりこの経済効果、福岡にとってはやはり対馬市民、壱岐市民が福岡に来ることによって、かなりの経済効果をもたらしている。対馬産の魚介類、魚いろいろですね、ほとんどが福岡魚市場や唐津魚市場であり長崎方面に直接は出荷はされておられませんよね。

そのようないろいろなことが、ほぼほぼ経済圏は前も船越議員からも前回の質問の際にも言わ



れていたと思いますけども、対馬市にとって市民の経済圏はほぼ福岡である。そこら辺を考えて市民もだんだん何か、何で長崎なんだろうという今の若者というのは増えてきております。

今長崎県の当初予算、令和6年度ですね、長崎県は7,300億円ほどの予算でありますよ。しかし福岡県の当初予算2兆1,300億円、約3倍です。長崎県の3倍の予算をやはりあんだけの人口経済、そういった予算を持っております。

我々の対馬市、長崎県からの支出金、県から対馬市として29億円ぐらいですね。壱岐市は20億円。五島市、県からの五島市は37億から40億。やはりこの今、対馬市の課題、島民の航空運賃、ジェットフォイル等の新船の課題、燃料、物価高騰、大変厳しい状況にあります。私はもっともっと市長は、長崎県に対してこのような交付金、もっといろんな交付金を私は言っていると思いますよ。五島に40億来てるんですよ、県から。対馬市は30億ですよ。今トンネル等がありますんで、その工事があつてますんで交付金が30億になっていますけど、ほぼほぼ25億ぐらいですよ。市長いいですか。

そして、やはり子どもたち、子どもたちの県大会、対馬島内で予選をして県大会に行く際は、みんな福岡経由佐賀、そして長崎に移動する、やはりこれまで親御さんの負担ですよ。このようなハンディを背負っている離島の子どもたちなんですよ、この対馬の子どもたちは。その辺は市長はどのように思われていますか、子どもたちの移動です。

○議長（初村 久蔵君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大変答えにくい質問でございますけども、要はここ対馬は経済圏、生活圏は福岡だということは、もう市民の皆様が十分御承知なことだと思っております。そして、この行政圏はただ長崎でございます。そういう中、やはり子どもたちは、今、高校生はもし本土に行くとなると長崎県でございますので、長崎の高校が主体となっているところでございますけども。ただ、今、子どもたちの生活圏として、対馬の病院等で、ちょっとなかなか難しいときは、福岡の病院等に通われているという実態は承知しているところでございますが。

要は、先ほども私、昭和21年に転県の議決があったという話はしましたが、この後、これがまた大きな影響を与えたものというふうには思っておりますけども、昭和28年に離島振興法が成立をされております。このことによって、離島の開発が拍車がかかり、いろいろいろいろな事業費が積み込まれておりますけども、平成28年から令和4年度までの離島振興事業費は、事業費ベースといたしまして約8,430億の事業がここ対馬に送り込まれております。これは県の中で約32%に当たりますけども、この離島振興事業によりまして、ここ対馬をはじめとして長崎県の離島もかなり豊かになってきているのではないかという思いを持っております。

そこで、あえて今、福岡へ転県と言われても、まず福岡県のほうが、その転県を果たして許すのかという問題もちろでございます。そして、以前は福岡県の議会では転県は議決いただきま

したけども、むしろ長崎県議会のほうで否決をされたという実績がございますので、今後はそういうこともいろいろ考えながら、ただ、理想だけで動くことは大変危険なことがあるのではないかと考えております。

まして、対馬市の議会でも動く場合は、糸瀬議員個人の考えだけじゃなくて、やはり議会は対馬市議会のほうで、ほかの議員の皆さんもどのようなお考えなのか、そこら辺を私も、もし動く場合は把握しながら動いていかなければならないのかなというふうに思っております。

すいません。平成28年からじゃなくて、申し訳ございません。昭和28年から令和4年までの離島振興事業費でございます。大変失礼しました。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 私一人で動く、もちろん動けるはずがないですよ。やはりまずは市長、これはね、まず市民、市民に一度、どう考えているかということ。私は、全世帯等にアンケートを取って見たらどうかと、それからでいいと思うんですよ。私個人がどうのこうのとか、これは市民から出てきている言葉、動きというか考え。議会の議員の先生方も何名かおられるかもしれませんが、これはやはりもう以前からこんな動きというの、動いては止まり、動いては止まりという形で。

やはり今のこの市民が、果たして今どう思っているのかですよ。やはりそれを市民の声を市長はやはり聞いて、今後のそれからの動きで私はいいと思うんです。ですから、市長の考えはどうですかということで今、明日、来年、再来年にすぐ行くとかじゃなくて、これはどういうふうに今市民が考えているかというのを私は市長に尋ねていたということですね。まずは、やはり市民にアンケート等を私は取るべきじゃないかと思っております。それからのスタートでいいと思います。

それと、市長のほうからは特区、特別区、特区についてあまり、福岡の転県の方ばかりで、特区については何らあまり答弁がありませんけども、やはり今、五島市でドローンを活用した宅配業務による国家戦略特区に指定を最近されたという報道があってありました。やはり対馬市としても、今この現状、人口減少、止まりませんよね。やはりこのような減少の中で、人口減少対策、皆さんそれは分かっております。しかし、それがなかなかできていないのが、この8年間の市長の行政の運営であったと私は思っております。

まずは、やはり対馬市も少しずつ今言うこの転県にしてもそうですけども、波を起こしていかないと、このマンネリ化した政策では、ますますこれ衰退していくんですよ、市長。もう少し、お、比田勝市長、この4年間ですごい政策を出したと、そのようなことを私たちは欲しいんですよ。昨日の所信表明を聞いていますと、あまりこれが伝わってこなかったんですよ、ですよ。あんな長々長々言われても誰も伝わってこないんですよ、ポイントだけ言ってほしかったんですよ。

よ。ポイントです、市長。

今対馬の、市長も分かっていると思いますよ、どう考えているか、市民が。昨日ですね、市長、私も帰って所信表明の挨拶をずっと見たんですよ。そして気づいたことがあって、市長は、もう最後になりますけども、人口減少、人口減少という言葉を出して、9回も言っているんですよ、所信表明の中で。ということは、市長もやはりこの人口減少というのは一番大事だということは分かっていると思います。

ですから、今後4年間、副市長二人体制となりましたので、人口減少は止まりませんが歯止めがかかるような政策を打っていただきたい。そして大胆な企業誘致、そして対馬の宝である子どもたちへの支援、物価高騰対策、まずこの4つでいいんです。そんないっぱい言っても無理ですよ。まずこの4つの柱でしっかりやっていって、対馬市を動かしていただきたいと思います。市長、最後に一言お願いします。

○議長（初村 久蔵君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 最後のほうのその4つのことは、そのことは私自身も肝に銘じて一生懸命取り組んでまいりたいと思いますけども、議員の今回のこの転任の動き、これを市民のほうに聞いてみてはどうかということについては、私はこのことは今冒頭申し上げましたように、これを市民の間に広げますと、また新たに混乱を起こすだけだということで考えてはおりません。

以上であります。

○議長（初村 久蔵君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） これは混乱は私は起きないと思います、意見ですから。市長、これは分断は起きませんよ、意見ですから。これを考えてまだ議員の皆様も、それをまたどうするかということをやっていけば、私はそれが市民の意見でございます、意見、よろしいでしょうか。そのことを最後の言葉にして、私の一般質問は終わりたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（初村 久蔵君） これで、糸瀬雅之君の質問は終わりました。

○議長（初村 久蔵君） 暫時休憩します。再開を2時10分からといたします。

午後1時53分休憩

午後2時10分再開

○議長（初村 久蔵君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 初めに、今春には厳原港への国際航路再就航により、週末には多くの観光客で活気と活力ある島へと復活を遂げている反面、一部の観光地ではたばこの吸い殻の